

挨拶

田名毅沖縄県医師会会長



本日ここに、名嘉恒守先生 日本医師会最高優功賞受賞、中山勲先生 沖縄県功労者表彰受賞、安次嶺馨先生 沖縄県功労者表彰受賞、高江洲義英先生 瑞宝小綬章受

章、狩俣陽一先生 瑞宝双光章受章、宮里善次先生 瑞宝小綬章受章祝賀会を開催いたしましたところ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

先生方のご業績は後程ご披露されますが、名嘉先生は「地域における保健医療活動」にご尽力されたご功績により、中山先生は「教育行政を通じた教育の発展」にご尽力されたご功績により、安次嶺先生は「小児医療の発展と研修医の育成等」にご尽力されたご功績により、それぞれの賞を受賞されております。また、高江洲先生は「精神医療及び福祉の向上」にご尽力されたご功績により、狩俣先生は「学校医として学校保健活動」にご尽力されたご功績により、宮里先生は「地域医療の充実・発展」にご尽力されたご功績により叙勲を受章されております。誠にありがとうございます。

さて、現在、我が国では地域医療構想や第8次医療計画に基づく政策が進められると同時に、来る2040年を見据えた新たな地域医療構想の検討が開始されております。人口減少と少子高齢化に歯止めがかからない状況の中、わが国の社会保障システムを持続可能なものにし、質の高い医療提供体制を維持していくにあたっては、かかりつけ医機能の強化や在宅医療の充実、切れ目のない医療・介護連携を実現していかなければなりません。

このような中、本会では「実行力のある医師会」を掲げ、県内の医療界における諸課題の解決を目指し各種事業を推進しております。とりわけ、県内の看護師不足の現状を鑑み、関係者との協議の場を設け、看護師確保対策について検討を始めた他、今般の診療報酬改定による医

業収入への影響についても調査を行っているところです。また、冬の救急ひっ迫に備えるべく、高齢者のコロナワクチン接種を呼びかけるポスターの作成や、県独自の新型コロナウイルス感染症アラート発出の提案、発熱患者等の受入れ対応が可能な医療機関を取りまとめホームページに公開する等、適切・的確な医療が提供できるよう取り組んでおります。

会員の先生方におかれましても、新執行部へご提案やご要望がございましたら、是非お申しつけいただければと思います。

今回受賞された先生方におかれましても、私どもに対し今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県医師会の会務運営にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、先生方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念して挨拶とさせていただきます。

業績紹介

平安明沖縄県医師会副会長



この度、めでたく受賞の栄に浴された名嘉恒守先生、中山勲先生、安次嶺馨先生、高江洲義英先生、狩俣陽一先生、宮里善次先生の輝かしい数々のご功績の中から

主なものを簡単にご紹介させていただきます。

名嘉恒守先生

名嘉先生は、昭和59年10月に名嘉病院院長に就任され、昭和63年2月には医療法人仁誠会理事長に就任されました。

とりわけ、中部地域の学校医、集団予防接種の担当医を務められたほか、沖縄県警察嘉手納署の警察医としても活動され、死因究明に多大な貢献をされました。

また、沖縄県医師会監事を16年お務めになった他、代議員や、中部地区医師会の評議員ならびに各種委員会委員として、沖縄県医師会・中部地区医師会の会務運営・事業推進にもご尽力いただきました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功

績が認められ、この度、日本医師会最高優功賞の栄に浴されております。

中山勲先生

中山先生は平成 19 年 1 月に沖縄県教育委員会委員長に任命され、「教育の第一の目的は、人格形成を目指す教育、すなわち徳育である」という考えのもと、学識経験者の立場から積極的に提言を行われました。この年に「教科書検定意見撤回を求める県民大会」が開催された際にも、教育委員会委員長として登壇されました。

また、先生は県立総合精神保健福祉センター所長や県立精和病院長等を歴任されると共に、県立病院を退官された後は、民間の玉木病院の院長に就任され、県下の精神保健福祉・精神医療の向上に尽力されました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、沖縄県功労者表彰の栄に浴されております。

安次嶺馨先生

次に、安次嶺先生は、昭和 44 年に琉球政府立中部病院に入職され、沖縄県民の疾病、特に新生児・未熟児の治療に尽力されました。その後、県立中部病院長、県立那覇病院長及び県立南部医療センター・こども医療センターの初代院長を歴任され、本県の小児医療の充実に多大な貢献をされました。

また、先生は沖縄県医師会理事、沖縄県教育委員会委員長等を歴任されたほか、県立中部病院ハワイ大学卒後臨床研修事業団プログラムディレクターとしても日々後進の育成に情熱を注ぎ、本県の医療の発展に尽力されました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、沖縄県功労者表彰の栄に浴されております。

高江洲義英先生

次に、高江洲先生は、昭和 60 年 8 月にいずみ病院を開設されて以来、精神科リハビリテーションの考え方を取り入れ、精神科デイケア、精神科作業療法をいち早く開設し、芸術療法、絵画療法、音楽療法、園芸療法等を実践され、県下の精神医療および福祉の向上に貢献されました。

また、中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学

校の設立にあたっては、建設準備委員会ならびに建設委員会の委員を務めるとともに、学校の校章も先生がデザインされました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、瑞宝小綬章の栄に浴されております。

狩俣陽一先生

狩俣先生は、昭和 57 年 3 月にかりまた内科医院を開設されて以来、多忙な日常診療の傍ら、学校医として児童の健康管理や保健教育、疾病予防はもとより、養護教諭や教職員と連携し、円滑な学校保健活動の推進に多大なる貢献をされました。

また、浦添市医師会設立初期の平成 6 年から 4 年間にわたり理事として会務運営・事業推進に尽力されたほか、開院当初より通院が困難な患者宅への往診に献身的に取り組む等、我が国が目指す地域包括ケアシステムの原型ともいえる地域医療活動を実践・推進してこられました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、瑞宝双光章の栄に浴されております。

宮里善次先生

宮里先生は平成 15 年に中頭病院院長に就任後、救急センターを開設し、中部医療圏の中核病院としての使命を担うべく救急医療体制の整備に尽力されました。その後、平成 29 年に理事長に就任されて以降も地域の需要に対応すべく、特定集中治療管理料 2 施設基準取得やダヴィンチによるロボット手術の導入等、高度急性期医療を推進されておられます。

また、中部地区医師会理事の他、沖縄県医師会理事、常任理事、副会長を歴任され、新型インフルエンザや新型コロナ感染症への対応、学校保健事業、地域医療関係事業等、会務運営に多大なるご尽力をいただきました。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、瑞宝小綬章の栄に浴されております。

先生方のこれまでのご労苦に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受賞、誠におめでとうございます。

来賓祝辞

糸数公冲縄県保健医療介護部長



祝賀会の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

名嘉先生、中山先生、安次嶺先生、高江洲先生、狩俣先生、宮里先生、この度の受章、誠に

めでとうございます。

心からお喜び申し上げます。

先生方の業績については、先ほど詳しくご紹介がございましたので詳細は割愛しますが、名嘉先生におかれましては、昭和 59 年に名嘉病院院長に就任、地域医療の向上に御尽力されとともに、学校医として 36 年間にわたり健康診断・健康教育を通して学校保健の円滑な運営に大きな御貢献をいただきました。

中山先生におかれましては、県立精和病院の院長を務められるなど、離島を含めた県内の精神医療の推進に御尽力されとともに、沖縄県教育委員会委員及び委員長として本県の教育に関する施策や方針の審議・決定に携わり、教育行政の推進に寄与されました。

安次嶺先生におかれましては、県立中部病院において専門性の高い新生児・未熟児治療を行いながら、後輩研修医等の指導にも積極的に取り組まれるとともに、沖縄県内に小児医療専門病院を設立するべく奔走し、県立南部医療センター・こども医療センターが開設されると初代院長に就任、本県における小児医療の充実に御貢献をいただきました。

高江洲先生におかれましては、昭和 60 年にいずみ病院を開設以来、37 年間診療に携わるとともに、石川中学校の学校医として生徒たちの健康管理・健康教育に取り組むなど、地域医療の向上に御尽力されました。

狩俣先生におかれましては、昭和 57 年にかりまた内科医院を開設以来、41 年間診療に携わるとともに、現在の在宅医療にあたる地域医療活動に取り組み、その推進に御貢献をいただきました。

宮里先生におかれましては、平成 15 年に中部病院院長に就任、中部医療圏の救急医療体制の整備を推進するとともに、沖縄県医師会役員を 14 年間務め医師会事業の会務運営、事業推進に御尽力されました。

6 名の先生方におかれましては、本県の地域医療の向上に多大な御貢献をいただき、その御労苦に対して敬意を表するとともに、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

今後とも県民の健康増進のため御活躍いただくとともに、これまで培ってこられた豊かな経験を生かして、後進の育成にもお力添えを賜りますようお願いいたします。

さて、県では広範かつ継続的な医療の提供に必要な 5 疾病、6 事業、在宅医療の充実及び医療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた第 8 次沖縄県医療計画を推進し、地域医療、連携体制の確保に取り組むとともに、本県の重要課題の一つである健康長寿復活に向けて、「2040 年に男女とも平均寿命日本一」を目指してまいります。

本県の地域医療提供体制の確保及び健康寿命延伸等の取組の推進にあたりましては、医師会の皆様との連携が必要不可欠なものと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今回栄えある表彰を受けられました名嘉先生、中山先生、安次嶺先生、高江洲先生、狩俣先生、宮里先生の益々の御活躍及び、沖縄県医師会の御発展並びに御列席の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

謝辞

中山勲先生



本日は医師会の会員の皆様方、誠にありがとうございます。私は、県医師会の学会や祝賀会に参加したことが無く、今回の祝賀会も実は迷いましたが、お祝いをして

もらえる時には、素直に受ける方がいいだろうと思い出席した次第です。

私の場合、今回は教育部門での受賞ということで、1人だけちょっと違っております。2004年に県公務員を定年退職し玉木病院に勤務していた頃、県から教育委員にならないかという話があり、引き受けました。常日頃、戦後の日本人の心の劣化のようなものを何となく感じていたため、県の子供たちへの教育に対して何か意見が言えるチャンスがあるならばと思い引き受けました。

辞令交付の際に、私を含め2名のために稲嶺県知事や副知事、県議会議長等が10人ぐらいずらっと並んでいました。県の教育委員会というのはこんな大変なことなんだとびっくり仰天しました。

また、2007年、私が教育委員会委員長になって最初に開催される議会の前日に、教育庁の事務方が教育委員長あての質問と回答を持ってきました。私は、「なぜあなたが回答を作るのか」と問い、「私に対する質問は私が答えるから」と伝えました。そして当日、野党議員から新教育委員長に抱負を聞きたいとの質問があったため、「知育・体育・徳育の中で、今必要なのは徳育だ」というようなことをいろいろ喋ったら、その野党の大物議員さんが、「私が聞きたかったのはそういうことなんだよ」と非常に賛同の意を表してくれ、ほっとしたことがありました。今後はもう年ですが、いち県民として少しでもお役に立てるようにやっていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。



中山先生 表彰状・勲章

安次嶺馨先生



大変ご多忙な時期に私達のためにこのように素晴らしい祝賀会を催していただき、また多数の会員の方々にご出席いただき心から感謝申し上げます。

先ほどもご紹介いただきましたが、私の医師のキャリアはほとんど県立病院で培ってきたものでございます。その間、2年間は県医師会理事として、広報を担当し、いろいろなことを勉強させていただきました。それまで全く病院の外のことを知らなかったのですが、ご指導をいただき、これはもう私の大変大きな宝になったと感謝申し上げます。

私は、現役時代は小児科医として未熟児や、救急医療から集中治療にかけてたくさん子どもたちを診てきたわけですが、退職から17年経ち、私が診てきた子どもたちがどのような大人になってるのかなということをこの頃考えるようになりました。

皆さんご承知の通り沖縄は今、長寿の危機に瀕しており、医師会を始めいろいろな方々が何とか長寿を取り戻すということで活動しておられますが、私は小児科医として、一つだけ申し上げたいことがございます。

実は生活習慣病というのは、大人になってから起こるものではなく、つまり成人病ではなくて、子どものときから生活習慣や栄養が関係しているということがわかってきたのです。皆さんは、お母さんのおなかの中にいる胎児期から既に、将来、生活習慣病になり得るというリスクファクターが生じているのをご存知でしょうか。

小児科医の一部は知ってると思うのですが、これはドーハッド (DOHaD) という新しい学説で、証明されているのです。私が申し上げたいのは、もちろんこれまでの先生方がおやりになってきた成人を対象とした生活習慣病予防を一生懸命やる必要があるんですが、残念ながらそれだけでは十分ではなく、実は子ども、赤ん

坊の時からやらないといけない。胎児からということは、妊婦さん、女性の健康から始めていかなければならない。それによって健康な赤ちゃんが生まれ、健康な子どもに育ち、それが病気のない健康な大人になるということなんです。

ですから私は、沖縄県が長寿復活するためには、今お腹の中にいる胎児から対策を始めて、この子たちが元気に育って30年後には健康な大人になるという長期的な展望を持ってやれば、沖縄の長寿復活はできると信じております。

このようなことをやるために、今年ささやかなNPO法人を立ち上げ、活動を始めたところでございます。今後、県医師会のご指導・ご支援をお願いします。終わりに県医師会のご発展、会員の先生方のご活躍を記念して、お礼のご挨拶をいたします。本日はどうもありがとうございます。



安次嶺先生 表彰状・勲章

高江洲義英先生



たくさんの先輩方がいらっしゃる中で、私が受賞者ということで大変恐縮しております。これだけのドクターの中で、多分私の世代が一番勉強しなかった時代かと思

いますが、あの時は60年安保から70年安保に向けて大学紛争の時期でした。私は昭和40年入学という、世間が安保闘争の時代となります。

昭和41年になると、さらに激しさが増して、

その善し悪しは言わないですが、僕らが入学した時は、沖縄返還運動というのもありました。ところが大学闘争をやっている間に、「君たちは日本に戻るのか」との突き詰めもあり、今でも悩んでいるところはあるんですが、日本と沖縄ということをして特に大学6年まで考えさせられました。

ですから6年間のうちに授業をちゃんと受けたのは半分はあるかなというところで、事実、昭和46年に東京大学は卒業生がゼロ、誰も卒業させてもらえなかったんですね。隣の東京医科大学も昭和46年の3月に卒業生は無しですから、履歴書には昭和46年7月と書かないといけない。そしたら、こいつは何か成績を悪くしてピーコン（再試）を受けさせられたんだと思われるんだろうと思っています。

そういう時代に医者になりましたが、当時の精神科に入局してみますと精神薬理学というのは、セレンスやスルピリドがちょうど出てきた時で、今の向精神薬の一代前の華やかな時代でした。薬だけじゃなくて、僕の先輩が脳波を取っていましたが、これも重積発作の方の終夜脳波などがあって難しい、大変だと思い選んだのが精神病理学でした。そこではいろんな精神療法をやっていました。

私は学生の頃から、クラブでも絵を書いたり歌を歌ったりしたものですから、絵画療法や音楽療法というものがありまして、これは面白いなと思いました。卒業して精神科を選ぶと大学研修のあと民間病院に赴任し、患者さんの生活療法といって、折り箱を作ったり、割り箸を詰めるとかの単純な作業をやっていました。それはそれで意味があることなんでしょうけど、もっと患者さんの楽しみ、表現はないだろうかと思いました。当時も既に作業療法ができようとしていましたし、ケースワーカーもいましたが、まだ国家資格としては臨床心理士や音楽療法士はいませんでした。そういう、いわゆるパラメディカルスタッフがいなくて、私が赴任した病院の院長先生は、当時新しく出たエレクトーンを買って下さり、患者さんを病棟の外に

出してやって歌唱、絵画、サイコドラマなどをやっていました。

そういうことで、自分が開業するときには、精神科リハビリテーションということで、ドクターだけではなく作業療法士や心理士によるカウンセリング、絵画療法や音楽療法、園芸療法をやるということで、今回の受賞は私ではなく、スタッフがそういう精神科リハビリテーションを頑張ってきた、そのためだろうと思っています。私はこのような医療チームで集団精神療法に当たること、患者さんがやりたいこと、それを見つけることが重要だと思っています。これからも芸術療法、音楽療法、園芸療法など、精神科リハビリテーションをはじめとしながら、総合病院、クリニック、各種医療機関、あるいは公立・私立病院との連携を重要なものしたいと思いますので、よろしくお付き合いの程をお願いいたします。

今回、瑞宝双光章という名誉ある叙勲を賜りましたことは、学校校医として長年務めてまいりました役割を評価いただけた結果と伺っております。

また、この叙勲に際して、天皇陛下に拝謁の機会を賜りましたことは、私にとりましてこの上ない喜びであり、大きな励みとなっております。

この栄誉は、私個人の力によるものではなく、日々支えてくださった関係者の皆さま方のお力添えがあってこそ実現したものでございます。

この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

高齢を迎え、これを機に引退も考えておりましたが、今回の叙勲を契機に、地域のためにもう一度何かお役に立てるよう努めたいという気持ちを新たにしております。

今後とも微力ではございますが、地域社会のために尽力してまいります所存です。

本当にありがとうございました。



高江洲先生 勲記



狩俣先生 勲記・勲章

狩俣陽一先生



このたびは祝賀会にご招待賜り、誠にありがとうございます。

私は昭和 57 年に浦添市内間にて開業し、それ以来、地域医療に長年携わってまいりました。

現在 80 代を迎え、人生の晩年を迎えつつありますが、これまでの歩みを振り返りながら、このような場に立たせていただけることを大変光栄に思っております。

宮里善次先生



田名会長はじめ県医師会、それから会員の皆様、推薦ばかりではなくこのようなお祝いもしていただきましてありがとうございます。

私は県立中部病院でインターン、小児科を研修したんですが、壇上にいらっしゃる安次嶺先生のもとで小児科研修を行いました。おそらく歴代の研修生の中で一番出来が悪かったと思いますが、本日のこの出

来事で先生に少しでも恩返しできたんじゃないかなと、それが一番嬉しく思っております。

研修を終わりました、当時指導医でありました玉那覇先生にスカウトされる形で、中頭病院勤務医第1号として入職しました。

ところが次の人が来るまでなかなか時間がありまして、一番若造なので、私以外は理事の先生方ばかりなのでたくさん仕事をいただきました。本当に身分不相応な役職までいただきまして、仕事をやって参りました。

当時は団塊世代の子どもさんたち、ジュニア世代が0歳から15歳までいっぱいいましたが、入院できる施設が県立中部病院と中頭病院だけだったんですね。そういう忙しい中で、この役目はできないけどなと思いながらも何とかこなしてきました。そのことが実は組織を考えたり、組織を見たり、鳥の目というんでしょうか、大きな経験になっていることは確かであります。

私の医師としての個人史はもうまったく中頭病院と100%オーバーラップしますので、今回の受章は自分のことではなく、中頭病院が、敬愛会が受章したという意識の方がまだまだ強いんです。

これから12月30日までに9回飲み会が予定されているんですが、じわじわと喜びが沸いてくるんだろうと思います。本日はありがとうございました。



宮里先生 勲章



祝賀会の様子

